

平成22年 6月 16日現在

研究種目： 基盤研究（C）

研究期間： 2007 ～ 2009

課題番号： 19520016

研究課題名（和文）

日本儒教に関する倫理学・倫理思想史的研究—近代化論と比較思想史的研究の統合

研究課題名（英文） A study on Japanese Confucianism from a point of ethics and history of ethical thought – an attempt to integrate studies in modernization with studies in comparative philosophy

研究代表者 高島 元洋 （ TAKASHIMA MOTOHIRO ）

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号： 90127770

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本儒教を、東アジアの儒教との比較思想史的考察、および近世・近代日本の近代化に果たした役割を考察し、その倫理学・倫理思想史的意義を総合的に把握する。

研究成果の概要（英文）：

This study attempts to compare Japanese Confucianism with East Asia Confucianism, and to understand what kind of part Japanese Confucianism played in modernization of Japan, and in the end to grasp the meaning in its ethics and history of ethical thought.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：日本倫理思想史

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：儒教、近代化、倫理学、倫理思想、朱子学、山崎闇斎、全体論

## 1. 研究開始当初の背景

（1）従来から、東アジアという観点での儒教研究は活発に進められている。しかし、儒教研究の現状は、理論的に曲がり角に来ている。たとえば通常の問題意識は、一つは〈近代化論〉で、これは主として近世日本における儒教とつづく近代社会との関係を問題にする。丸山真男などの徂徠研究が

これに相当する。もう一つは〈比較思想史的研究〉で日本化論ともいう。儒教史を中国からの外来思想の受容・修正・包摂という過程で見る立場で、相良亨・吉川幸次郎・渡辺浩などの研究がある。両者は、普通異なった観点からの儒教解釈と捉えられ、それゆえにそれらは一つの解釈に統合されることなく、非生産的な研究状況にある。

(2) 本研究は、これまでさまざまな視点で語られてきた儒教理解を新たな展望のもとに一つの本質において把握することを意図する。その際、従来の研究の問題点も明らかになる。たとえば〈近代化論〉の視点で、近世と近代との連続性は、従来徂徠学を中心に語られてきたが、江戸時代の儒者を仁斎・徂徠を中心にして議論することには限界がある。江戸時代の幕府・藩の教育政策、藩校の実態、あるいは通俗道德の役割などを考えてくると、闇齋学などにも近代化を推進した要素があると指摘できる。

〈比較思想史的研究〉の視点においては、すでに津田左右吉、溝口雄三などにより、日本と中国では社会組織が違うのだから儒教の受容も同じはずがないとする指摘がある。しかしこの研究も、たとえば中国の士大夫と日本の武士、家族制度・宗教観の違いなど断片的な検討がなされているだけで、包括的な研究がない。

(3) 近年、中国・台湾・韓国においても、儒教をいかに評価するかという議論が活発に行われている。これについては、しばしばみられるような学問を、イデオロギーで解釈しようとする非生産的、不毛な議論を避けるためにも、実体そのものを客観的に把握しておく必要がある。そのためにも問題設定を厳密にし、方法論を確立しなくてはならない。本研究は、このような手続きによるはじめての本格的な研究になる。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、日本を含め広く東アジアに共通する思想である儒教をとりあげ、イデオロギーのフィルターを排除して、以下のような問題設定から総合的に研究することを通して、とりわけ日本儒教の倫理学・倫理思想史的な意義を学問的客観的に位置

づけることを意図する。問題設定は次のようになる。

(2) 〈比較思想史的研究〉東アジア儒教思想の中での普遍と特殊の研究。儒教といってもアジアのそれぞれの地域で理解の方向が違う。中国・韓国・日本ではそれぞれが、その社会に対応して儒教を理解する。ここで儒教の中において普遍と特殊とは何かという問題がでてくる。それゆえに比較思想史的研究が課題となる。

(3) 〈近代化論〉日本における儒教の位置。日本では江戸時代に儒教が定着する。しかし、この社会は儒教だけの社会ではない。仏教もあり神道もあり、渾然としており、この中で日本の近代化が進められる。ここで問われることは儒教が近代化にあたってどのように機能したかということである。ここでもっとも重要な課題は、日本儒教の実体である。これについては、若干の例外を除いて具体的な研究がない。ここでは、日本儒教を具体的に明らかにしながら日本の近代化論を問題とする。

(4) 〈日本儒教の倫理学・倫理思想史的意義〉西洋思想と東洋思想におけるそれぞれの普遍と特殊の研究。儒教をアジアの思想の代表的なものとして捉え、西洋思想との比較を試みつつ、儒教思想における普遍と特殊という問題から、日本儒教の思想的意義を探る。

## 3. 研究の方法

(1) 理論研究：〈比較思想史的研究〉〈日本儒教の倫理学・倫理思想史的意義〉について、文献解読を中心に理論的に検討する。

① 〈比較思想史的研究〉に関しては、儒教は東アジアのそれぞれの地域で独特な機能を果たすが、その実体を、イ) 権力の構造(日本の封建制と中国・韓国の郡県制)、

ロ) 資本主義的経済活動の受け入れ方(商業の位置づけ)、ハ) 教育の意味(科挙)、ニ) 家族制度・宗族の実状(仁と孝)というような項目で比較検討し、儒教の中における普遍と特殊とは何かという問題を理論的に解明する。

②さらに研究が遅れているのは、日本儒教の本質の解明である。〈日本儒教の倫理学・倫理思想史的意義〉に関して、単なるイデオロギーではなく、倫理学・倫理思想史的意義を、厳密な問題設定と方法論にそって明らかにする必要がある。

(2) 調査研究：従来儒教は封建思想であるといわれ、日本の近代化に貢献しなかったとされるが、実際はそのような単純なことではない。近世儒教の研究は、日本思想全体から見ると遅れている。テキストが比較的整備している古学を中心として優れた成果もあるが、日本朱子学になると良質のテキストがないということもあってまだまだ未開拓の分野が残されている。

〈近代化論〉に関して調査研究を中心として江戸時代の儒教理解の実態を解明する。研究の基礎は〈近代化論〉の調査にあり、これをもとに〈比較思想史的研究〉〈日本儒教の倫理学・倫理思想史的意義〉の理論研究を積み重ねる。

日本近世儒教の実態調査(主として上総道学の解明)を行なう。山崎闇斎学派は、江戸時代においていろいろな派にわかれるが、近世を通じて影響力を持ち、その道統は、近代また第二次世界大戦後の昭和60年代頃まで、部分的に持続した。一つの学派としてはきわめて希にみる長い道統を持ち、さまざまな検討・分析の可能性はある。しかしその全貌はほとんど分かっていない。

(3) 翻刻・校訂・注釈：上総道学につい

ては、近年、この関係の資料が千葉県立文書館に入った。崎門の資料は、そのほかなお各地の図書館・博物館に散在するので、これらを収集し、テキストの翻刻・校訂・注釈の作業をおこなった。良質のテキストがないということが、崎門研究の最大の問題点であるゆえ、このような基礎的作業がきわめて重要になる。なお、これらの研究は今までに行なわれたことはない。

#### 4. 研究成果

(1) 比較思想史的研究(空間的考察)においては、東アジアにおける思想と社会構造の関係を具体的に解明できた。中国儒教(思想)と郡県制(社会構造)については、a 宗族(社会構造)における「孝」(思想)、b 科挙・士大夫(社会構造)における「聖人」「修己治人」「仁」(思想)という枠組みから理解し、日本儒教(思想)と封建制(社会構造)については、a 宗族がない社会(社会構造)における「礼」(思想)、b 科挙・士大夫がない社会(社会構造)における「人倫」(思想)という枠組みから理解した。(高島元洋「日本儒教の特徴」、『お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成20年度 活動報告書海外教育派遣事業編』pp. 187-204、2009年3月)。

(2) 近代化論の問題(時間的考察)に関して、日本儒教には、まだまだ未開拓の分野が残されている。独創的な思想家として伊藤仁斎や荻生徂徠を論じることは比較的容易であるが、思想史を考えた場合、さらに重要な問題は、日本朱子学(闇斎学派、あるいは日本漢学など)が果たした機能である。その意味で、近世儒教の実証的な研究は残された課題であったが、基本的な問題につ

いては今回解明できた。この報告書については、現在お茶の水女子大学から E-Book を刊行する準備をしている。

(3) 日本儒教の倫理学・倫理思想史的意義に関しては、方法論的な問題を和辻倫理学を再検討することからはじめて、具体的に日本儒教においてどのように理解すべきかを解明し「人倫」という概念に到達した。

(高島元洋「『思想史』とは何か―『日本倫理思想史』に関する方法論的反省」、『日本史学年次別論文集 2005 (平成 17) 年』学術文献刊行会・朋文出版、pp. 494-487、2008 年 5 月)、前掲・高島元洋「日本儒教の特徴」など)。

(4) 上総道学の調査がおおむねおわり、その概要が分かった。また上総だけでなく、九州など各地の儒教を調査することができた。基本的な問題については今回解明できた。またこれまでの研究書が学術的に整理されていなかった点を改善し、今回新たに、基本文献の翻刻・校訂・注釈の作業をおこなった。この報告書については、現在お茶の水女子大学から E-Book を刊行する準備をしている。

(5) フランス(ブレーズ・パスカル大学)・台湾(国立政治大学・国立清華大学・法鼓仏教学院)の学者とシンポジウムを通して研究交流をした。ヨーロッパにおいて日本思想への寛信が極めて高いこと、台湾においてあらためて儒教研究が盛んになってきていることがわかり、情報発信の基地としての日本の位置が重要であることを確認した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

### ①高島元洋 *Food in Shinto*

(『お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成 21 年度 活動報告書 学内教育事業編』pp. 25-31、2010 年 3 月)

### ②高島元洋「日本朱子学における敬の意味」

(『お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成 21 年度 活動報告書 学内教育事業編』pp. 231-236、2010 年 3 月)

### ③高島元洋「道元の仏性論」

(『神田外語大学日本研究所紀要』第 4 号、pp. 1-26、2009 年 10 月)

### ④高島元洋「神道における「食」」

(『お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成 20 年度 活動報告書 学内教育事業編』pp. 310-315、2009 年 3 月)

### ⑤高島元洋「日本儒教の特徴」

(『お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成 20 年度 活動報告書 海外教育派遣事業編』pp. 187-204、2009 年 3 月)

### ⑥高島元洋「なぜ今、「基本的な生活習慣」の育成か」

(『道徳と特別活動』Vol. 25 No. 4 7 月号、文溪堂、pp. 4-7、2008 年 6 月)

### ⑦高島元洋「『思想史』とは何か―『日本倫理思想史』に関する方法論的反省」

(『日本史学年次別論文集 2005 (平成 17) 年』学術文献刊行会・朋文出版、pp. 494-487、2008 年 5 月)

### ⑧高島元洋 Buddha [仏 butu : existence]

(The perceptible world)・Buddha-nature  
[ 仏性 bussho:essence ] (The  
imperceptible world) and Buddha in  
sitting meditation [仏向上 bukkojo] (さ  
とり satori:The enlightenment)－On the  
spiritual constitution of Dogen－  
(『倫理学年報』57、pp. 8－9、2008年3  
月)

[学会発表] (計6件)

①高島元洋「日本朱子学における敬の意味」  
(お茶の水女子大学大学院教育改革支援プ  
ログラム「日本文化研究の国際的情報伝達  
スキルの育成」第4回 国際日本学コンソ  
ーシアム－日本学研究はだれのものか 日  
本思想学部会 2009年12月17日)

②高島元洋 *Meditation et persona: Du  
Sens du Recueillement (Kei) dans le  
Neo-confucianisme japonais* Tradui par  
Matthias HAYEK

(Colloque franco-japonais Personality  
and subjectivity East and West。 [フラ  
ンス] ブレーズ・パスカル大学にて開催。  
お茶の水女子大学と共催。2009年12月10  
日)

③高島元洋「日本朱子学における敬の意味」  
(翻譯:林鳴宇、日本朱子學之「敬」)  
( International Conference on  
*Meditative Traditions of East Asia* 東  
亜的静坐伝統国際学術研討会。 [台湾] 清  
華大学 (National Tsing Hua University)、  
法鼓仏教学院 (Dharma Drum Buddhist  
College)。2009年10月29～31日)

④高島元洋 *Food in Shinto*  
(*Japanese French corporative Seminar  
and Symposium*

Theme:Thinking, Doing, Teaching。お茶の水  
女子大学で開催。 [フランス] ブレーズ・  
パスカル大学と共催。2009年7月18日)

⑤高島元洋「神道における「食」」  
(お茶の水女子大学大学院教育改革支援プ  
ログラム「日本文化研究の国際的情報伝達  
スキルの育成」第3回 国際日本学コンソ  
ーシアム「食・もてなし・家族」日本思想  
部会。2008年12月17日)

⑥高島元洋「日本儒教の特徴」  
(お茶の水女子大学大学院教育改革支援プ  
ログラム「日本文化研究の国際的情報伝達  
スキルの育成」台湾政治大学とのジョイン  
トゼミ。シンポジウム「日本の文化と思想」。  
台湾・国立政治大学。2008年12月13日)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高島 元洋 (TAKASHIMA MOTOHIRO)  
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科  
学研究科・教授  
研究者番号: 90127770

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし